

5 「風土」分科会 要旨

San-En-Nanshin Summit 2010 in Minamishinsyu

「風土」分科会では、「三遠南信の地域資源を活かした連携事業の推進と歴史風土の保全」をテーマに、秋葉街道信遠ネットワークの取り組みや三遠南信地域社会雇用創造事業の取り組みについての報告などを踏まえて、意見交換がなされた。

三遠南信地域にある貴重で多様な資源を再認識し、それらをどういった区分や切り口で発信し、どのような手法やしくみを用いて活かしていくべきかについて議論がなされた。

コーディネーター	財団法人 阿智開発公社	理事長	羽場 睦美
アドバイザー	特定非営利活動法人三遠南信アミ	理事	三宅 淳子
報告者	秋葉街道信遠ネットワーク	会長	木下 利春
	三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)	事務局長	内藤伸二郎
行政	浜松市	市長	鈴木 康友
	田原市	市長	鈴木 克幸
	設楽町	町長	横山 光明
	根羽村	村長	小木曾亮弐
経済	中東遠地区商工会連絡協議会 (磐田市商工会)	会長	野寄 宏之
	長野県商工会連合会下伊那支部広域協議会 (泰阜村商工会)	会長	秦 和陽児
住民	三遠南信地域を学ぶ会	会長	仲井 政弘
	祭り街道の会	事務局	伊東 直幸

(敬称略)

■はじめに

事務局

ただいまから、第18回三遠南信サミット 2010 in 南信州「風土」分科会を開会いたします。「風土」分科会のコーディネーターは、財団法人阿智開発公社理事長の羽場睦美様、アドバイザーはNPO法人三遠南信アミ理事の三宅淳子様です。まずは、本日までご出席されている皆様から、議論を始める前に一言ずつご発言いただきます。

浜松市 鈴木市長

先ほど全体会で各テーマのポイントについてそれぞれご議論がありましたので、分科会ではそれを少し掘り下げて議論をしたいと思います。

この地域は、資源が豊富な地域ですので、それをどうみんなで生かしていくかが大事ではないかなと思います。



田原市 鈴木市長

田原市は、駒ヶ根市の隣の宮田村と友好提携

をしています。そのため毎年この近くを通りますが、田原市からの距離を実感するたびに、三遠南信自動車道の開通が待ち遠しいと感じています。



設楽町 横山町長

設楽町は愛知県東三河の旧津具村と合併して根羽村のお隣の町となりました。今日は、車で来ましたが、1時間30分程で飯田市へ到着しました。県境を越えて、各地域を勉強し、一緒に連携ができるといいなと思います。

根羽村 小木曾村長

長野県の最南端にある根羽村は、設楽町や豊田市、岐阜県恵那市のお隣で、小さい村ですが、村にある資源を利活用しながら、雇用の拡大や新しい産業の創出などに一生懸命取り組んでいます。

磐田市商工会 野寄会長

磐田市商工会の野寄です。中東遠地区商工会連絡協議会の会長もしていますが、天竜川東岸、大井川以西からの参加は当商工会だけです。きょうみなさんにいろいろ教えていただき、しっかり商工会のみなさんに報告をするつもりです。

長野県商工会連合会下伊那支部広域協議会 秦会長

長野県商工会連合会下伊那支部広域協議会会

長を務めております泰阜村商工会長の秦です。今日は、リニア将来構想検討委員会のメンバーとして、いろいろ勉強してきたことを、生かせればと思っています。

三遠南信地域を学ぶ会 仲井会長

三遠南信で歴史を見て歩く活動をしています。平成13年に豊橋で発足し、現在90名ぐらいの会員がいます。今朝、豊橋を6時に出発して、国道151号を通り、ここまで車で3時間10分かかりましたが、以前に比べて整備が進み、スムーズに来ることができました。

祭り街道の会 伊東事務局

祭り街道の会は、阿南町の一番端っこの愛知県境の新野を拠点に活動しています。国道151号を「祭り街道」と名づけ、街道沿いに点在する国の重要無形民俗文化財の祭りを線につなげ、祭り文化を発信しながら地域振興に取り組んでいます。祭りが疲弊していくことは地域の疲弊にもつながりますので、何とかこういったものをみんなで支えて、いい地域づくりをしたいと考えています。

秋葉街道信遠ネットワーク 木下会長

今日は、事業報告をさせていただきますが、やはり文化や歴史がなぜ消えていくか、広域に物事を広めるにはどうしたらいいか、民間と行政の役割分担、若い人の世代にどういう形で伝えていくかなどが課題と考えます。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 内藤事務局長

本日はトップ対談の中でも少し言及がされましたが、SENAが取り組んでいます内閣府事業の三遠南信地域社会雇用創造事業についてご報告をさせていただきます。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

たいへん広域で様々な資源を持った三遠南信地域の風土について、本日は、2つのセッションに分けて話を進めていきます。最初にご報告をいただき、その後、三遠南信の自然、文化、人材、風土などの地域資源をどのように生かして事業を推進し、資源を保全していくかについて、ディスカッションします。それから、三遠南信地域の雇用創出のプロジェクトについてご説明をいただいて、意見交換をさせていただきます。まずはじめに、昨年度の「風土」分科会の要旨について確認させていただきます。

事務局

昨年のサミットの「風土」分科会における議論の要旨ですが、まず1点目に連携事業における住民と行政の組み合わせ、役割分担、バランスを図ることが重要。2点目に伝統芸能の継承のあり方、連携や交流による課題の克服、地域内における伝統芸能の本来の形の保全について、もっと知恵を出していくことが必要。3点目に身近な地域資源を積極的に活用すること、あるいは既に取り組んでいる活動を進めていくことが重要という3点でした。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長



先ほどのトップ対談では、佐原豊橋市長さんから、風土に関して、地域における文化の交流、

お祭りの交流、人の交流、様々なものを支えている「絆の道」があるという発言がありましたが、三遠南信自動車道や国道、天竜川や鉄道等を通じて私たちは絆を深めていて、そこには歴史や文化、観光資源があるということを感じました。また、牧野飯田市長さんからは、遠山郷の霜月祭り、飯田の一本桜あるいは天龍峡などの資源を活かした取り組みにより、豊橋や浜松から観光に訪れてくれるという話がありました。このセッションでは、各地域の様々な交流や地域資源の活用などのご発言などを期待します。それでは、まず、木下様から、現在の活動、それから展望等についてご報告をいただきます。

■報告

「秋葉街道信遠ネットワークの取り組みについて」

秋葉街道信遠ネットワーク 木下会長

実は秋葉街道信遠ネットワークの始まりはそんなに古いものではありません。一昨年、伊那市長谷のみなさんが長谷から秋葉神社まで、2泊3日で昔の道をたどって歩いたのがきっかけです。私は秋葉街道沿いにある小川路峠の整備事業に10年ぐらい携わっていたことから、この試みを知ることとなり、伊那と浜松の中間の飯田でまとめ役をお受けしている状況です。そこから様々な活動が始まりましたが、街道の整備をはじめ、1年かけて伊那から浜松までの全区間の踏破もしました。

信遠ネットワークの目的は、秋葉街道をよく知り、知ることによって秋葉街道を愛して、仲間を愛し、愛することによって秋葉街道沿線を開くというもので、先人がつくってくれたものをもう一回見直して、その中で得られるものなどを次の世代に伝えていくことを目指しています。街道で生きてきた人たち、街道を守ってきた人たち、それから、街道が本当に好きな人たちが出会って、志や心のつながりから自分たちで活動を広げ事業化していくことから、ど

ちらかというツールは口伝えが基本です。

信遠ネットワークが目指すところは、中山間地域の素材を活かした産業づくりと中山間地域の価値を再認識してもらうことで、地域に住んでいる人自身がここに住んでいてよかったと認識してもらえるように、地域資源を知ってもらえるような事業の実施や、埋もれている資源に光が当たるよう、情報発信をしていきたいと思っています。

昨年は、長野県から元気づくり支援金をいただき、三国街道の高遠から、秋葉神社までの公図の調査をしました。古道を探す地道な作業に1年かかりましたが、行政区を越えてつながり、しっかりネットワーク化して取り組んだことで、埋もれていた地域資源に光を当てることができました。



信遠ネットワークは、伊那市高遠から、長谷、大鹿村、飯田市、浜松市天竜区までの秋葉街道沿いの地域の個人や団体による官民協働のネットワークです。関係図としては、秋葉街道信遠ネットワークの各地域の事業者には賛助会員的な役割を果たしてもらいながら、ツアーの企画を手掛ける起業者や事業者とも同じ価値観を持ち、秋葉街道を活かしていくために情報発信をしていくというもので、秋葉街道でのツアーを通して地域へお金を落とすとしていく仕組みづくりをしていきたいと思っています。この官民協働による取り組みについては、やはり官と民の強みを生かすことが必要と考えます。民の柔軟性とスピードと人のつながり、官の公共性や情報発信力を活用していくことが大切です。民間の役割

と行政の役割を分担していくことで、各地域の疲弊を防ぎ、地域をつなげていく活動ができるのではないかと思います。

続いて、これまでの活動ですが、街道全区の調査のほかに、各地域でウォーキングツアーなどを実施しています。今、自然や癒し、山歩きがブームで、先週開催した大鹿村でのウォーキングには参加者が80人ぐらい集まりました。地域資源を認識してもらうとともに、地域の人たちが道を歩くことで道をつくってくれています。

また、街道整備のツアーでは、ちょうど今月の27日と28日に水窪で、みんなが一緒になってつるはしを振って道づくりをします。それから、秋葉街道夏期大学では地域資源などの勉強会を行っています。

さらに、ホームページの立ち上げ、街道PR用のDVDの作成、秋葉街道にちなんだ映画の第1弾の制作もしました。20歳代から30歳ぐらいの若い人たちが1年間、秋葉街道にかかわりながら街道の魅力を若者の視点で発信する映画をつくりました。タイトルは「アンバマイカ」秋葉街道で、上映時間は1時間15分、伊那市、それから大鹿、水窪、遠山郷と、4ヶ所でライブツアーとともに映画上映会をしていきたいと思っています。

それから、遊休農地を活用した芋焼酎づくりの支援では、長野県から元気づくり支援金をいただき、地元の酒蔵喜久水さんで5,000本の芋焼酎を作ります。この焼酎に使う芋は、秋葉街道沿線の関連団体の遊休農地を使って育てた芋をブレンドしていますので、ぜひご購入いただきたいと思っています。

また、全地域での一斉ウォーキングを実施しています。イチ、ニ、イチ、ニと歩くことから「イチニイチニの日」の12月12日に長谷から水窪の間で4ヶ所に分かれ、ガイドについてもらいながらウォーキングをしています。

以上で報告とさせていただきますが、秋葉街道のホームページに活動内容が出ていますので、

ぜひご覧ください。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

まだスタートして間もないということですが、すばらしい活動をされていて驚きました。ここから、意見交換を行います。

田原市 鈴木市長

今、街道のお話が出ましたが、実は田原も太平洋側の表浜に国道42号、三河港側の内海に国道259号があり、渥美半島の菜の花浪漫街道として日本風景街道の登録を受けています。

また、2年前から渥美半島の国道沿いなどにある22軒の飲食店が、地元の豚肉や海産物を使ったオリジナルどんぶりを開発し、そのどんぶりを食べながら半島を巡る「どんぶり街道スタンプラリー」を実施しています。販売数は1年間で10万食を超え、1店舗当たり平均500万円の売り上げとなったほか、波及効果もかなりあったのではないかと思います。道路と地域資源をうまく活用することが大切と感じました。

この三遠南信地域の全体を見ますと、本当に地域資源が山積していると思います。トップ対談で飯田市長さんも桜や祭りの話をされましたが、花であれば、渥美半島には1月から始まる菜の花まつりがあります。この三遠南信地域は南北に細長いことから、花のシーズンや見頃に合わせてクイズラリーをしたり、四季折々の祭りのマップをつくったり、それから地域グルメの紹介をするなど、目的ごとの情報発信を三遠南信全体でできれば、おもしろく広がっていくかなと感じています。

また、三遠南信には渥美半島から御前崎までの遠州灘というすばらしい砂浜があります。この貴重な財産をどういう形でみんなに親しんでもらうかも重要です。渥美半島にはいくつかの自転車道がありますが、海岸端を走るコースを他地域の自転車道や観光地とつなげるなど、的

を絞った工夫と情報発信により、もっと親しめる地域になるのではないかと思います。

浜松市 鈴木市長

いろいろある資源をどういう切り口で、どのように売り出していくか、そこがとても大事ではないか思います。秋葉街道あるいは古道といったように、道の中で焦点を絞ってコンセプトを決めていってもいいと思います。

浜名湖の北に引佐地区というところがありますが、ここには、臨濟宗の大本山の方広寺、庭園のすばらしい龍潭寺、そして宝林寺、摩訶耶寺、大福寺というお寺が5つあることから、これらの観光資源を「湖北五山」と名付けました。それぞれのお寺は全く変わっていませんが、この観光資源を湖北五山という切り口でまとめ、全体として売り出していこうということです。

このことは、今まであった資源をさらにパワーアップしていく一つの切り口だと思います。やはりこのように知恵を絞っていけば、材料はたくさんある地域ですので、様々な取り組みができる気がします。

祭り街道の会 伊東事務局



今年の4月、阿南町に滞在型市民農園が20棟できました。「祭りの里にあなたの農園を」をキャッチフレーズに売り出しましたが、たいへん人気があり、都会のみなさんが喜んで生活をされています。地域のお祭りにも参加いただき、祭りの文化をみんなと一緒に楽しんでもらう取り組みをしています。町へ来られた人は、す

がすがしい風と温かいもてなし、地元の人との会話がすごく楽しいとおっしゃっています。また、私たちが当初に見込んでいた1年間の総滞在日数は、わずか4ヶ月でクリアするほどの利用状況で、やはり都会の人たちは、田舎での自然や人との触れ合い、ゆったりと過ごす時間を求めているのではないかと感じました。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

地域を結ぶ道路なども重要ですが、やはり人はそれだけで生きていけないのではなく、地域の豊かな自然や水、空気、そして、温かな人情などもなくてはならないと思います。また、この三つの地域をつなぎ合わせると、海から山まですべての地域資源が揃います。やはり私たちには、これらを守っていくべき役割があると感じました。

ここで、アドバイザーから一言いただきます。

アドバイザー／三遠南信アミ 三宅理事

午前中の住民セッションでは、「中山間を生きる」をテーマにした分科会に参加しました。多くの方から、地域のいろいろな話をお聞きしましたが、歴史風土、自然風土というのは地域の誇りであるということを感じました。歴史風土は、人々の五感で享受をされ、第六感の感性で磨き上げられて、ますます光り輝く地域の誇りや個性となることから、これらをどのように生かしていくかを産官学に住民を交えて検討していかなければならないと思いました。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

続いて、三遠南信地域社会雇用創造事業の報告いただき、さらに議論を深めたいと思います。それでは内藤様、よろしくお願いたします。

■報告

「三遠南信地域社会雇用創造事業の取り組みについて」

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 内藤事務局長



SENA事務局から、三遠南信地域社会雇用創造事業の取り組みについてご報告します。

この事業は、内閣府が所管する事業で、SENAが国の募集に応募して採択されたもので、全国から53の事業者の応募があり、そのうち12団体の提案が採用されています。

事業費は7億円で、事業期間は平成22年3月から24年3月末までですが、実質的には平成22年度、23年度の2ヶ年の事業です。事業目的は、自然資源を活用した雇用創造分野、地域づくりによる雇用創造分野、安心安全を確保するための雇用創造分野の3つの分野において、社会起業インキュベーション事業と社会的企業人材創出・インターンシップ事業を行うことで、雇用創造のネットワーク・システムを構築し、社会的企業による継続的な雇用創造を図ることです。社会的企業というのは、内閣府では、「少子化や環境被害あるいは地域の衰退など、そのような社会的な課題について、事業性を確保しながら自主的かつ積極的に取り組むNPO法人等」という定義をしています。

SENAは、「3県にまたがる県境地域の一体化、250万流域都市圏の創造」を三遠南信地域連携ビジョンに掲げていますが、一昨年秋のリーマンショック、あるいは昨今の円高等により、製造業を取り巻く環境が激変をしている上、三

つの地域の県境が接する部分の中山間地域においては、高齢化や過疎化といった問題を抱えていることから、これらを課題と認識し、その解決のために社会雇用創造事業を実施することによって、県境を越える雇用創造のネットワークをつくっていこうと事業に応募しました。

具体的な事業の一つがインキュベーション事業です。現在お勤めの方が企業の中から起業、大都市にお住まいの方を対象としたふるさと起業、あるいは当地域内にお住まいの主婦や学生の方などを対象に社会的企業の起業を支援し、2年間で90人の方の起業を目標としています。

また、もう一つの柱がインターンシップ事業です。現在の経済環境下により職に就いていない方、あるいは学生、シニア層などを対象に、NPO法人などで職場体験研修を行い、社会的企業への就業の支援を行うもので、2年間で研修修了生800人という目標を掲げています。

次に推進体制等ですが、この事業はSENAが実施しているものですが、SENAの内部に、SENA社会的企業人材育成委員会を組織した上で、インキュベーション事業では、コーディネート機関として3地域の産業支援機関に一部事業を委託して実施しており、南信州では飯伊地域地場産業振興センター、東三河ではサイエンス・クリエイト、そして遠州ではテクノポリス推進機構にご協力いただきます。

また、インターンシップ事業では、コーディネート機関を置き、森林に関するNPO法人などの様々な団体のご協力の下で研修生を受け入れていただき、事業を進めているところです。

インターンシップ事業の詳細ですが、1期の研修日数を30日間とし、2年間で6回開催します。それぞれ研修は約3ヶ月の期間内において30日間実施していただきます。研修生を受け入れていただいた機関には、研修を修了した研修生一人につき13万5,000円をSENAから交付します。なお、研修の受講料は無料となっています。

資料集の研修生受入機関の状況、研修生の状況については、若干変更がありましたので、訂正表をご確認ください。研修生受入機関の状況では、全域の第1期は18機関23コース、全域の計は50機関59コース、遠州地域の第1期は7機関7コースが正しく、研修生の状況では、第2期の遠州の申込者77名、第2期の合計の申込者173名が正しい数値です。

次に、社会起業インキュベーション事業の詳細ですが、事業内容は、新たな雇用を創出するために、この地域において社会的企業の創造・事業化を目指す方を支援するものです。具体的にはプラン・コンペティションを実施して優秀な事業計画を提案された方を選定し、その事業計画の策定者に対して、起業研修講座の開催、あるいは中小企業診断士等の企業アドバイザーをご紹介するなど、起業までの支援をしていきます。具体的な支援金額は、法人登記をした段階で、上限220万円を起業支援金としてSENAから提供いたします。

スケジュール等ですが、22・23年の2ヶ年で全体を4期に分けた上で、22年度8月に第1期と第2期の募集をしており、23年度5月に第3期と第4期の募集をする予定です。

このインキュベーション事業ですが、応募の要件は、三遠南信地域における地域内の課題やニーズに対応した社会的企業を起業し、かつ企業性を持つこととしているので、一時のボランティア活動ではなく、継続的に事業が展開できることを条件として、事業提案をいただいているところです。第1期の状況ですが、3地域の合計で26人の方から事業提案をいただき、2次審査を通過した方が現在16人という状況です。

このような形でSENAが内閣府の事業を23年度までの2ヶ年で実施しますが、今後の展開としては、今回の事業が、SENAとNPOなどの研修生受入機関との人材育成のための連携であり、SENAと社会的企業の起業家との連携であることから、こういった活動を2年間進

めていく中で、継続的に三遠南信の流域都市圏を支える雇用を創造するネットワークの構築を考えています。そして、2つ目として、現在、国において検討が進められている新しい公共の担い手として、内閣府の事業が終了した後も、人材あるいは社会的企業に対する育成や支援をこの地域の課題として対応していかなければならないと考えています。

**コーディネーター／財団法人 阿智開発公社
羽場理事長**

それでは、ここからは、活発な議論を期待し、多くの方からご発言をいただきたいと思います。

田原市 鈴木市長

インキュベーション事業ですが、具体的に、どういった事業なのか、例を挙げてください。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 内藤事務局長

インキュベーション事業は、自然資源や地域づくり、安心・安全という分野に限られています。1期の16の提案を見ますと、農業の関係などが複数見られたことから、農業の関係が一番特徴的かと思います。また、インターンシップ事業では、やはり中山間地域における森づくりの関係で東三河や遠州の研修生受入機関が多いと感じています。

田原市 鈴木市長

具体的な事業展開は、例えば農業ですと法人組織で立ち上げることになりますか。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 内藤事務局長

農業の従事者になりたいという方はインターンシップ事業に多い印象です。インキュベーション事業は、自ら業を起こす形になりますので、1次産品も含めた地域の特産品で事業化し

ようという提案がありました。

**長野県商工会連合会下伊那地区広域協議会
秦会長**

起業を目指している方の平均年齢はどのくらいでしょうか。

三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA) 事務局 内藤事務局長

正確な数字は持ち合わせてはいませんが、インキュベーション事業では、主に30代から50代の方が多かったと思います。

田原市 鈴木市長

田原市は、農業産出額日本一のまちということもあって様々な農業を展開しています。今、田原の35～36歳の若者が設楽町の名倉という地区の荒れた遊休農地を借りて開墾し、5町歩くらいで高原キャベツを生産しています。そこには小屋を建て、シーズンには4人ぐらいの従業員を置いて仕事をしていますが、今年の生産状況は大変好調だったようで、農地を拡大してコーンもつくろうかと考えています。

そもそものねらいは、高価で品質の良い高原キャベツの生産ですが、同時に、この山間地域での生産がうまくいくことで、農地を離れた地元の人たちが帰ってきて、これらの生産に携わるような動きになればうれしいという思いも持っています。この高原キャベツの生産が順調なのは、高原野菜の作り方を地元の農家のみなさんから教えてもらいながら生産をしたためです。田原のキャベツの作り方は知っていても高原キャベツのノウハウはなかったため、高齢の農家の方から教えを請いました。また、このような動きから、田原の若い人たちはかなり行動的になり、作手にも田原の若い人が1人入り込んでいますし、従事者には農業未経験者やブラジル人もいる状況です。今回、農業に必要な水の確保に当たり、井戸の掘削において、地元の

設楽町から多くの補助金をいただけたことは、この取り組みが順調に展開した大きな理由と思っています。一つ参考事例をご紹介します。

設楽町 横山町長



今、田原市長から紹介がありました。元々、設楽町では、地域の人たちが標高900mから1,000mくらいの土地を開拓して、高原キャベツをつくって成功していました。ところが高齢化が進行したことで農業を続ける人がいなくなり、農地は荒れてしまいました。そこに田原市から販売ルートやノウハウを持つ人たちが入り、設楽町で高原キャベツの生産をはじめました。農地は荒れ放題でジャングルのような状態でしたが、田原の若者が、毎日、毎日、日が暮れるまで一生懸命開墾し、きれいな農地を取り戻しました。ただ、高原と温暖な田原ではキャベツの作り方が違ったため、地元の人たちがやる気のある田原市の若者に教え、できあがったキャベツは田原の若者が販売する形を整えてきました。今、ちょうど3年目を迎えたところです。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

まさにマーケティングと高原野菜のノウハウ、人情等がうまく融合したモデルです。

他にもご意見をいただけますでしょうか。

根羽村 小木曾村長

今、人口1,200人の根羽村には、140人のIターン者が来ています。村の面積90平方kmの92%が

森林であるため、林業を中心に、森林を生かすしか村の生きる道はないと考え、新しい産業を創出し、雇用の拡大に取り組んでいます。消防団を退団する人はいますが入団する人はいないという状況から、何とか若者定住を目指そうと「青空のもとで働いてみませんか」というキャッチフレーズで就業者を募集し、200人程の応募者の中から10人を採用しました。

森林林業において、住宅と設計士、工務店、そして製材工場が一体となって「伊那谷の森で家をつくる会」をつくり、設計士から要求・要望のある用材を生産するなど、お互いに情報を交換しながら製材を始めました。国から「緑の雇用」という応援をいただきながら、全く素人の若者たちが3年間取り組んでいます。毎年、新しい青年たちが村へ住民票を異動してくれるようになり、消防団も60人の定員のところ75名まで増えてきました。このことから、住宅と就職先、そして給料の確保がしっかりしていれば都市部からでも若者が来てくれることを実感しています。



また、村には矢作川の水源があることから、下流域の豊田、岡崎、安城、刈谷、さらに117キロ先の太平洋の一色町まで、「流域は一つ、運命共同体」を合言葉に、上流、中流、下流の流域連携や交流の仕組みができています。大正3年から、下流の企業、自治体、住民のみなさんに上流の水源涵養林を持っていただいております。企業のみなさんからは、森林整備のために、毎年100万円ずつ応援をいただいております。さらに、

森林整備や村の植樹祭の際には、下流域の住民、自治体、企業のみなさんが約300人も村を訪れてくださり、たいへん感謝しています。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

たくさんの方が入ってきたということですが、村のお祭り、自治会や組合等への参加状況はいかがでしょう。

根羽村 小木曾村長

採用条件として、住民票の異動、消防団活動や地区の自治会、組合、町内のおつき合い、祭りにすべて参加することとしていて、それができる人しか村には来ていただかないことにしていますので、うまくいっています。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

今、限界集落などの様々な課題がありますが、冠婚葬祭、地域とのおつき合い、あるいはお祭りの継続が、若者が入ってきたことで持続可能な形で、再生産されていると理解してよろしいのでしょうか。

根羽村 小木曾村長

全くそのとおりです。今では、祭りの笛や太鼓も、昔から生まれ育った青年たちと同じようにできるようになってきました。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

住民のみなさんと経済界のみなさんから、いかがでしょうか。

三遠南信地域を学ぶ会 仲井会長

午前中に開催された住民セッションで、「祭りと伝統文化」の分科会へ参加しました。その中で、東栄町の太鼓のプロ集団「志多ら」の話が

ありました。「志多ら」のみなさんは、東栄町の御園の学校跡に本拠地を置いて10年になります。今は、若者ばかり18人が住んでいますが、これまでに、地元嫁いた方たちもいて、その子どもたちが大きくなったおかげで、地元の小学校が廃校から免れたという事実もあります。



「志多ら」の太鼓のリズムと地元の花祭りのリズムは全然違うようですが、「志多ら」のみなさんも地元の花祭りに参加して、花祭りの太鼓を叩き、今では子供たちも子供の舞を舞っているそうです。東栄町では別の形で新しい住民が増えたという事例を紹介しました。

磐田市商工会 野寄会長



磐田市は、三遠南信地域の東岸で、輸送機器のウエイトが高い地域です。現在、昨今の円高などの影響もあって、輸送機器関連企業がどんどん外へ出ている状況があり、当商工会会員の2次請け業者や3次請け業者は、大きな危機感を感じています。また、新たなものをこれから模索していかなければならないという課題もあり、日々悶々としております。

私は磐田市の竜洋町という天竜川の一番川下

に住んでいます。天竜川のすばらしい水で我々は生まれ育ったわけですが、我々の先人たちは、諏訪湖から天竜川の河口まで80里、さらに江戸まで80里というちょうど中間に位置する地域で、天竜川の上流のスギ、ヒノキをいかだで下流に運び、それを昔の掛塚港というところから廻船で江戸へ運んで、たいへん繁栄をしたそうです。今、お祭りでは掛塚まつりに力を入れており、このごろ県の無形文化財をいただきました。そんな歴史や資源を持つ地域ですが、この景気の曲がり角に、この三遠南信の中から、ぜひ雇用のチャンスであるとかアイデアをいただき、この苦難の時代を何とか切り開いて頑張っていきたいと思っています。

浜松市 鈴木市長



それぞれみなさんがいろいろな取り組みをしていますので、それをこれからどう生かしていくかということが大切です。この地域には価値ある資源が豊富ですが、地域の中にある自分たちが気付いていないものもあると思います。私は浜松市文化審議会の委員をやっていますが、委員のみなさんは、この地域に文化的財産が多いことをたいへん高く評価されています。ただ、そういったすばらしい財産があるものの、まだまだ生かし切れていないなと感じます。

やはり、こうした様々な資源を今後どういう切り口でどのように生かしていくかがとても大事になってくると思います。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

それでは、最後にアドバイザーからまとめの発言をいただきます。

アドバイザー／三遠南信アミ 三宅理事



住民セッションの「中山間に生きる」をテーマにした分科会において、北遠地区の方が、「自分たちはいわゆる厳しい条件の中で中山間に生きる専門家集団だ。そういう気概を持って、自分たちは様々な地域資源の魅力を発信していく。」という前向きな発言がありましたので紹介しておきますが、この分科会でも、上下流域での農業の連携や、上流域の人に対して下流域の人が感謝して協力してくれていることがうれしいというお話、さらに資料集で紹介されている南信州観光公社の地域資源を活かした体験型観光の取り組み、それから今後も継続して保全していく古道、歴史街道を生かした取り組みなどがあることを知りました。こういった事例や取り組みなどから、この地域では、地域に散在している歴史風土や地域資源を組み合わせ、三遠南信における新しい観光交流型の仕掛けをつくり、三遠南信地域ならではのニューツーリズムを生み出していくことができると思います。

また、住民セッションの中で「地域で自分らしく、生き生きと暮らしたい。」という発言が繰り返されましたが、地元から地域の魅力を掘り起こし、それを体系化させて発信していくことで、三遠南信地域でも、地域外の人が暮らしてみたいと思うような暮らしのブランドというか、

他の地域にはない優位性を持った地域のブランド化ができるのではないかと思います。

今回の「風土」分科会のテーマには、歴史風土の保全もあります。三遠南信地域連携ビジョンの風土分野のプロジェクトに挙げられているとおり、地域資源を生かすには、その保全も重要となります。私たち三遠南信アミでは、県境を越えて人と地域をつなぐということで、情報発信や連携あるいは交流事業に取り組んでいますが、地域にある民俗芸能など記録はビデオや写真集などに保存されてはいるものの、喪失や劣化してしまう前に、また情報化社会の中で情報発信していくためにも、早急にデジタル化が必要です。

SENAやNPOなどが協働して、地域の誇りを次代へ継承するといったマインドを持って、活動を拡充していかなければいけないと思います。

コーディネーター／財団法人 阿智開発公社 羽場理事長

三遠南信自動車道のように大きな道もあれば、古道の秋葉街道、あるいは遠州街道、あるいは中馬街道のような、消えてなくなりそうな道もあります。風土が対象とするところは、まさにその歴史、自然、文化、また人情であると思います。三遠南信自動車道やリニア中央新幹線等は、しっかりつくっていく努力をしながらも、一方で人々の心にある三遠南信地域に伝わる文化を大切に、そして決してなくしてしまわないように、みなさんと力を合わせて取り組んでいかなければならないという結論でまとめさせていただきます。

みなさま、大変ありがとうございました。これにて閉会とさせていただきます。